

事業方針

令和元年度は、当協会の基本理念、中期事業計画及び現下の経済情勢等を踏まえ、事業計画及び基本財産と支払準備資産の見込を以下のとおりとしました。

事業計画

(1)保証承諾額	400,000百万円	(前年度計画比 100.0%)
(2)期末保証債務残高	1,079,000百万円	(同 99.9%)
(3)代位弁済額	19,500百万円	(同 114.0%)
(4)求償権実際回収額	6,100百万円	(同 93.8%)

基本財産と支払準備資産の見込み

(1)基本財産保有額	76,530百万円	(前年度計画比 102.1%)
(2)支払準備資産	148,844百万円	(同 102.4%)

県下の経済金融情勢と事業の実施状況

令和元年度の兵庫県の景気は、年間を通じ回復基調で推移していましたが、年度最終盤になって、新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナウイルス」という。)の影響が拡大し、生産活動や個人消費が低調となるなど、停滞、悪化しており、先行きも極めて不透明な状況です。

中小企業・小規模事業者においても、総じて経営環境が改善方向に向かう中、人手不足や事業承継などの課題が顕在化し、それらへの対応が迫られていましたが、新型コロナウイルスの拡大により、資材、物資等の需給のひっ迫ややむを得ない休業措置など、事業活動の大幅な停滞を余儀なくされ、緊急の資金繰りを求めるところも数多くなっています。

このような中、当協会は、3月以降、新型コロナウイルスの影響を受けている事業者への支援について、最優先に全力で取り組んでいます。政府や地方公共団体の緊急経済対策に呼应し、相談窓口の開設、迅速な保証の承諾、返済猶予等の保証条件変更への柔軟な対応など、必要な措置をあらゆる部門で実施しています。また、急激に増嵩する業務量を遅滞なく、かつ的確にこなしていくため、職員の応援体制を確立するとともに、審査方法・手順や徴収書類等の簡素化を推進するなど、臨機かつ柔軟な事業運営に努めています。

一方、新型コロナウイルスの影響が限定的であった2月までの間については、保証部門では、中小企業・小規模事業者のライフステージに応じた保証商品のラインアップ化の更なる充実を進めるとともに、自治体融資制度や各種キャンペーンなどを活用し、積極的に保証推進を行いました。

期中管理・経営支援部門においては、「経営支援強化プロジェクト」の最終年度として、条件変更先の正常化に向けた取組を推進するとともに、県内の事業承継や創業に係る施策やイベント等の情報を取り纏めた情報誌「事業承継／創業 すべての情報 in ひょうご」の発刊や、事業者への優れた支援成果を顕彰する「ひょうご信用創生アワード」を引き続き実施しました。加えて、学生向け起業家育成講座や「創業フェア」、「創業カフェ」などの創業イベントを開催するなど、創業支援の取組も継続して実施しました。

求償権回収部門においては、効率的かつ効果的な回収を重視しつつ回収の最大化を図るとともに、個々の求償権の実情を見極め、進捗管理の徹底に取り組みました。

また、経営者保証ガイドラインや一部弁済による連帯保証債務免除ガイドラインを活用して、事業再生や生活再建の支援を行いました。こうしたことにより、各部門とも概ね計画どおりないしそれ以上の成果を挙げることができました。

当期の業績

令和元年度の業績は次のとおりとなりました。

保証業務実績

(1)保証承諾

件数	27,669件	(前年度実績比 106.3%)
保証承諾額	458,768百万円	(当年度計画比 114.7%)
		(前年度実績比 107.4%)

件数、金額とも前年度をわずかに下回る水準で推移していましたが、3月に入り、新型コロナウイルスの拡大により、保証ニーズが急激に増加し、保証承諾額は、当年度計画、前年度実績ともに上回りました。

(2)期末保証債務残高

件数	90,772件	(前年度実績比 99.2%)
保証債務残高	1,110,403百万円	(当年度計画比 102.9%)
		(前年度実績比 101.3%)

保証承諾と同様、件数、金額とも前年度比でわずかに下回る水準で推移していましたが、3月以降の保証承諾の急激な増加により、保証債務残高は、当年度計画、前年度実績ともに上回りました。

(3)代位弁済

件数	1,643件	(前年度実績比 100.6%)
代位弁済額	18,710百万円	(当年度計画比 95.9%)
		(前年度実績比 96.3%)

返済緩和等の条件変更への弾力的な対応を行ったことや、「経営支援強化プロジェクト」の取組を継続して実施したことにより、代位弁済額は、当年度計画、前年度実績とともに下回りました。

基本財産と支払準備資産実績

(1)基本財産

基本財産	76,986百万円	(当年度計画比 100.6%)
		(前年度実績比 102.3%)
基金	19,460百万円	(前年度実績比 100.0%)
基金準備金	57,527百万円	(同 103.0%)

(4)求償権

求償権 実際回収額	6,326百万円	(当年度計画比 103.7%)
		(前年度実績比 94.2%)

無担保求償権の増加など、回収環境が悪化する状況のなか、効率性を重視しつつ回収の最大化を図るとともに、個々の求償権の内容を適切に見極め、進捗管理の徹底に取り組みました。

これらの効果により、求償権実際回収額は、当年度計画を上回りました。

求償権償却額	18,589百万円	(当年度計画比 98.0%)
		(前年度実績比 108.2%)
保険金	14,652百万円	(前年度実績比 108.6%)
損失補償補填金	1,030百万円	(同 108.5%)
償却準備金等	2,907百万円	(同 105.8%)

求償権残高	4,566百万円	(前年度実績比 85.5%)
-------	----------	----------------

求償権残高は、代位弁済額が前年度実績よりも減少したことから、前年度実績を下回りました。

(2)支払準備資産（借入金及び関連会社株式を除く）

支払準備 資産	150,538百万円	(当年度計画比 101.1%)
		(前年度実績比 102.9%)
現金	1百万円	(前年度実績比 106.5%)
預け金	34,262百万円	(同 108.3%)
有価証券	116,275百万円	(同 101.4%)

支払準備資産は、当年度計画とほぼ同様の実績となりました。

令和元年度経営計画の達成に関する評価及び公表

業務運営に係る経営の透明性をより一層向上させ、客観性の高い評価を行うことにより対外的な説明責任を適切に果たすことを目的として、外部評価委員会を設けています。令和元年度の外部評価の内容につきましては当協会のホームページに公表する予定です。

令和元年度の主な取組み

創業イベントの開催

当協会では、地域経済の活力向上につながる創業を支援するため、各種創業イベントを開催しています。

令和元年度は、創業に興味がある女性や創業間もない女性経営者を応援する「女性創業カフェ」(令和元年7月22日)、保証協会と金融機関、支援機関及び自治体が一体となって創業者を支援する「創業フェアはりま」(11月7日)、「創業フェアひょうご2020」(令和2年2月18日)、創業を志す20代の若者を支援する初めての取組として「創業カフェU-29」(12月1日)を開催しました。これらのイベントにおいては、創業経験者によるトークセッションや、参加者同士の情報交換会、専門家による個別相談会などを実施し、延べ131人の皆さまにご参加いただきました。



創業カフェU-29

事業承継にかかる取組

「創業」や「事業承継」について県内各地で実施されている支援施策やイベント、実際に創業や事業承継をした方のインタビュー記事などを掲載した情報誌「創業／事業承継 すべての情報in ひょうご」を発行しました。本情報誌は、当協会が事務局を務める「兵庫県地域支援金融会議」の編集により、2018年から春と秋の年2回発行しています。また、令和2年1月24日には、当協会、日本政策金融公庫、兵庫県事業引継ぎ支援センターの3機関共同主催による「事業承継対策セミナー 2020」を開催しました。当日は、事業承継についての講義やトークセッション、専門家による個別相談会を実施し、延べ55人の皆さまにご参加いただきました。



事業承継対策セミナー 2020



情報誌

関係機関と連携した経営支援の取組み ～ひょうご信用創生アワードの開催～

地域金融機関等関係機関と連携し、中小企業・小規模事業者の経営改善や事業再生をさらに実効性のある取組みとするため、平成24年10月に設置された「兵庫県地域支援金融会議」は、当協会が事務局を務め、地域金融機関、政府系金融機関、中小企業再生支援協議会など36機関(当協会含む)が参加しています。令和元年度は、総会、担当者会議を含め、計3回の会合を開催しました。

また、この地域支援金融会議が同会議の参加機関から金融、経営支援を受け、優れた成果を上げた事例を顕彰する「ひょうご信用創生アワード」を引き続き実施しました。

企業のライフステージに応じて、創業、成長、改善の3部門を設け、合計45件と多数の応募の中から事前選考により9組の事例を優秀賞に内定の上、令和元年11月21日に公開の最終選考会をアワードとして開催したものです。当日は、9組の皆さまがそれぞれプレゼンテーションを行い、3部門ごとに最優秀事例、優秀事例を決定、トロフィーと副賞を贈呈しました。



兵庫県地域支援金融会議 総会



ひょうご信用創生アワード

ビジネスフェアへの出展

保証協会をより身近に感じていただくため、各地域で開催されるビジネスフェアへ積極的に参加し、信用保証の仕組みや各種保証制度の紹介など、当協会のPR活動を行っています。

「国際フロンティア産業メッセ2019(令和元年9月5日、6日)」では、多くの方に保証協会を知っていただくため、信用保証のしくみや各種保証制度の紹介を行ったほか、保証利用企業11社に対して、自社製品や技術をPRする出展ブースを提供しました。

また、大阪信用保証協会が主催する「OSAKAビジネスフェアものづくり展2019(11月20日)」へ協賛し、県下の中小企業(3社)に対してブースを提供しました。この他、「あまがさき産業フェア2019(7月25日、26日)」や「北はりまビジネスフェア(10月25日、26日、27日)」にも出展しました。



国際フロンティア産業メッセ2019 出展ブース

大学・専門学校における起業家育成講座の開催

当協会では、大学・専門学校などへの出張講座を積極的に行うなど、若い世代の創業に関する理解と関心を深める事業を展開しています。

令和2年1月10日には、兵庫県立大学 国際商経学部 グローバルビジネスコースにおいて、外国人留学生と日本人学生を対象とした起業家育成講座を行いました。

また、2月19日には、将来的に起業を志す専門学生の皆さまが、そのノウハウを習得していただくことを目的に、神戸プレーメン動物専門学校で起業家育成講座を行いました。

なお、専門学校を対象とした講座については、初めての取組となりました。



兵庫県立大学での講義

但馬支所の新事務所への移転

但馬支所は、事務所を仮移転した後、平成31年4月から建替え工事を行ってきましたが、このたび建物が完成し、令和2年3月23日に新事務所での業務を開始しました。

新事務所には、約30人程度の収容が可能な「談話室」を新たに設置しており、当施設を地域交流やセミナー等にご利用いただくなど、地域経済・社会の発展に資する場として活用していく予定です。



但馬支所 新事務所

金融機関へ感謝状を贈呈

中小企業・小規模事業者の皆さまが信用保証をご活用するために、格別のご協力をいただいた金融機関および店舗に対して感謝の意を表すため、感謝状を贈呈しています。

令和元年度は、平成30年度の実績に基づき、「金融機関」「金融機関店舗」のほか、特別部門として「飛躍、ひやくライト」「ぜんしん」「リードα」「たんけい、たんけいプレミアム」「事業展開を支援する兵庫県融資制度」「経営者保証ガイドライン推進キャンペーン」「地域創生キャンペーン、チャレンジサポートキャンペーン」「経営改善支援」「事業性評価・事業承継支援」の各部門に感謝状を贈呈しました。